

農産FAX情報 第2号

令和5年6月1日

発行：ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 秋まき小麦

(1) 赤かび病防除

- 止葉期は平年より4日早く、開花期も早まることが予測されます。赤かび病は開花期間中の多湿条件により多発するため、開花始期に1回目の防除を行いましょう。
- 降雨が予測される場合は、防除を前倒しするなど天候に合わせ防除を行いましょう。
- 穂全体に薬剤がかかっていない場合や、発病を確認してからの散布では効果が低いです。開花状況に合わせて複数回防除を行うなど穂全体に薬剤がかかるようにしましょう。



図 赤かび病の防除適期

表 赤かび病防除を中心とした防除体系例

防除時期	薬剤名	分類系統	使用濃度(倍)	使用回数	使用時期
1回目防除 (出穂期)	プロラインフロアブル	DMI	2,000	2回以内	収穫21日前
2回目防除 (7日後)	ミラビスフロアブル	SDHI	1,500	2回以内	収穫7日前
3回目防除 (7日後)	バラライカ水和剤	フタルイミド DMI	500	3回以内 (出穂期以降は1回)	収穫14日前

注：耐性菌の出現を避けるため、同一系統薬剤の連用は避け、系統が異なる薬剤を組み合わせましょう。

2 てんさい

(1) 中耕

- 中耕作業により、除草効果や地温上昇効果が期待できます。茎葉が傷つかないように注意しながら実施しましょう。

(2) テンサイトビハムシの防除

- 高温少雨により発生します。ほ場観察を行い、発見しだい薬剤散布を行いましょう。

3 ばれいしょ

(1) ナストビハムシの防除

- 成虫の発生時期は6月中・下旬ごろが最盛期となるため、ほ場観察を行きましょう。生長点付近の若葉に1~2mmの円形の食害が特徴です。
- 6月上旬ごろから産卵が始まり、ふ化した幼虫は地中に入ります。幼虫はストロンや根、イモを食害するため、生食・加工用等では商品化率が低下します。成虫を防除し、幼虫の密度を抑えましょう。
- ナストビハムシ（成虫）は、アブラムシ類との同時防除が可能です。発生盛期に7~10日間隔で2回実施しましょう。

4 豆類

- 除草剤は、雑草の種類や発生状態によって適切に選択しましょう。また、土質や土壌水分を考慮して使用し、薬害の発生を防止しましょう。
- 散布作業の際は、近接する農作物に飛散しないよう風向等に注意しましょう。

農薬使用後は生産履歴への記帳を忘れずに！

安全確認を行い、農作業事故防止！！

徐々に暑くなる季節、熱中症に注意！